

第1章

現況と課題

1 現況と課題

(1) 都市の現況と特性

1) 位置・地勢

大洗町は、茨城県太平洋沿岸のほぼ中心にあり、県都水戸市の中心部から南東に約12km、首都東京から約100kmの距離に位置しています。東は太平洋に面し、北は那珂川を境にひたちなか市、西北は涸沼川を境に水戸市、西南は汽水湖である涸沼をはさみ茨城県、南は鉾田市と接しています。

町域は、東西約2.5km、南北約9.0km、面積は約23km²であり、美しい海岸線はおおらかな湾形をなし、市街地は概ねこれに沿う低地部に形成され、後方に標高25m～35mの丘陵を背負っています。涸沼川に近い低地部には水稻が栽培され、丘陵部は畑や山林となっています。

また、本町は、首都圏と北海道を結ぶカーフェリーが就航する茨城港大洗港区を有し、常磐自動車道や北関東自動車道など高速道路網、鹿島臨海鉄道大洗鹿島線の大洗駅により、広域交通面において恵まれた地域となっています。

【大洗の広域的位置図】



【大洗町周辺図】



2) 沿革

大洗町は、日本三大民謡のひとつ「磯節」で謡われる白砂青松の景勝地であり、穏やかな気候・風土の中で、古くから漁業と観光のまちとして発展してきました。

昭和29年に磯浜町と大貫町が合併し、その後昭和30年に夏海村（鉾田市の旧旭村の一部）を編入して現在の町域となりました。

■旧石器時代・平安時代 ～古来より生活の場～ 【磯浜古墳群の分布】

旧石器時代のドンドン山遺跡をはじめ、古墳時代の磯浜古墳群（車塚古墳や日下ヶ塚古墳）や、古代に創建された大洗磯前神社が現存しています。平安時代中期頃の暮らしは半農半漁で、髭釜などの海岸線で製塩が盛んに行われ、涸沼沿岸の住民も製塩のために夏季だけ夏海集落に居住していたと伝えられています。



■江戸時代 ～最初のまちづくり～

大洗で最初のまちづくりは、文禄2（1593）年に漁業の発展に伴って形成された磯浜の住宅地からで、屋敷割（地割）が実施されました。

■明治・大正 ～観光の誕生～

明治に入ると、水戸の観梅と併せた観光客相手の料理屋や旅館が立地しました。大正中期にはバス、水浜電車も運行され、「潮湯治（しおとうじ）」と呼ばれていた海水浴が大衆レジャーとなり、海水浴客が増加しました。



【観光客相手の料理屋や旅館の様子】



【水浜電車の運行】



【海水浴の様子】

■高度成長期 ～まちの基盤づくり～

高度成長期には、国道 51 号の夏海・大洗・大貫の3本のバイパス整備、大洗鹿島線の開通、大洗港重要港湾整備・カーフェリーの就航、大洗文化センターの建設、磯浜・大貫海水浴場の新浜への移転、海浜公園やマリントワーの整備、土地区画整理事業の推進など、まちの基盤の基礎が大規模に形づくられました。



【開発後の大洗町臨海部】

■現在 ～新たなまちづくり～

平成 14 年のアクアワールド茨城県大洗水族館リニューアルオープンをはじめ、北関東3県を結ぶ北関東自動車道の開通など、広域に対応した施設が整備されました。そのような中、平成 23 年3月 11 日に発生した東日本大震災では、本町においても震度5強・最大 4.2 メートルの津波を記録し、沿岸地区を中心に甚大な被害を受けました。しかし、いち早く復旧・復興に取り組み、安全・安心で賑わいのあるまちづくりが進められ、「住みたい・住み続けたい」魅力的なまちを目指した対応を推進しています。

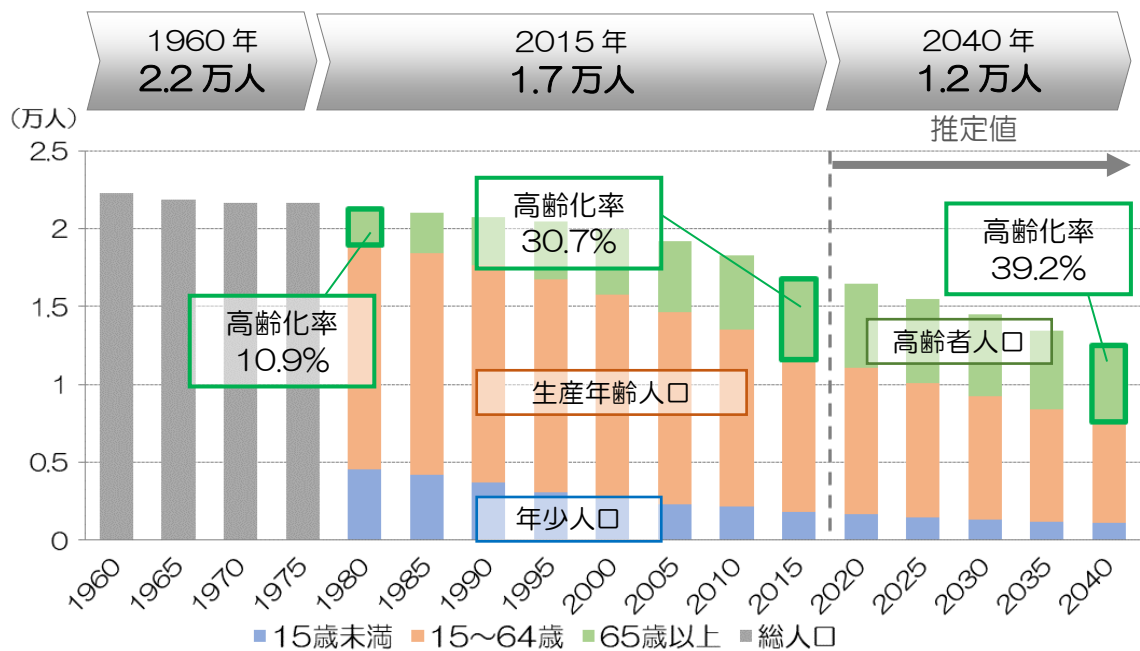


【アクアワールド茨城県大洗水族館】

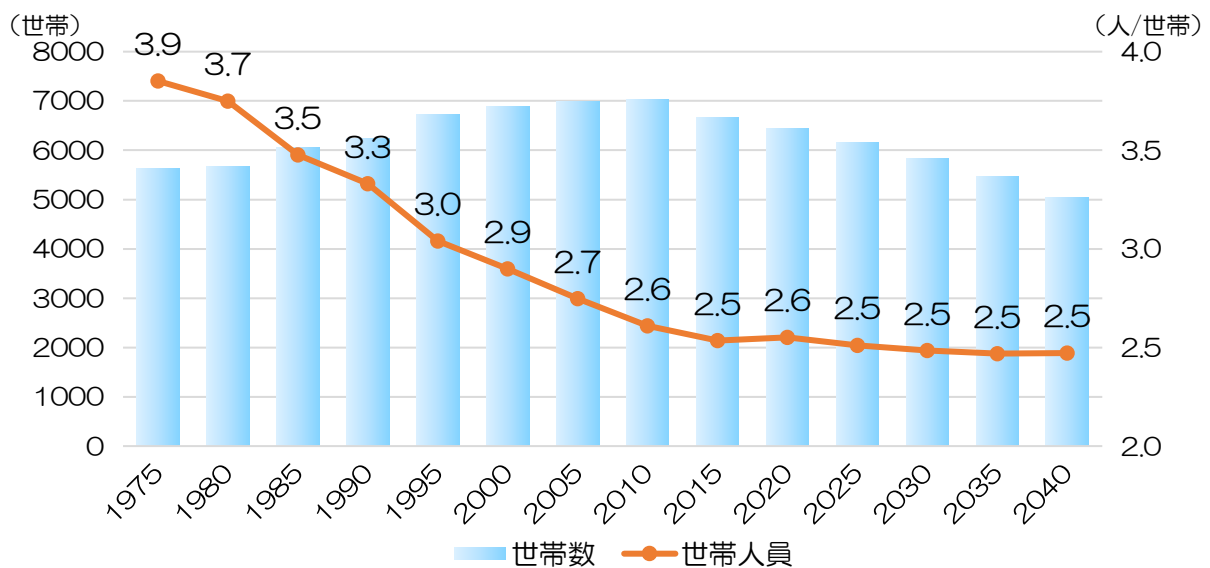
3) 人口と世帯

大洗町の人口は1980年頃から緩やかに減少していましたが、2000年からは2万人を切り、今後、さらなる減少が続くと見込まれ、2040年には1.2万人になると推計されています。生産年齢人口（15～64歳）と年少人口（0～14歳）が減少傾向にある一方で、高齢者人口（65歳以上）は増加を続けており、現在30.7%の高齢化率は39.2%に増加すると推計され、高齢化が進行すると予想されています。また、世帯数は核家族の進展等により2010年までは増加していましたが、2010年以降は世帯数も減少し、世帯規模の小規模化が続いている状態です。

【大洗町の人口構成と将来人口】



【世帯数・世帯人員の推移】



出典：総務省「国勢調査」、

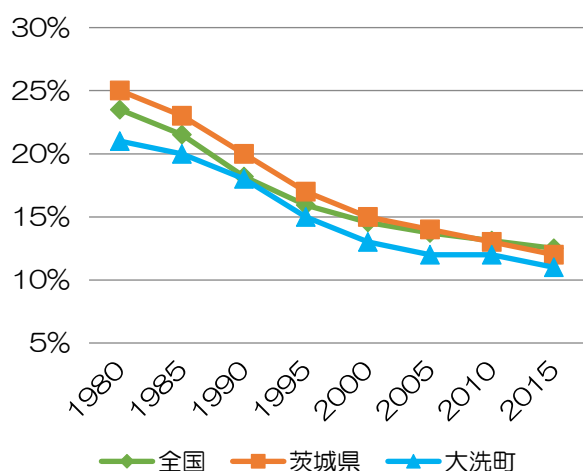
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年推計）

年少人口は、長期的な減少傾向が続いており、1995年には高齢者人口に逆転され、2000年には、3,000人を下回っています。

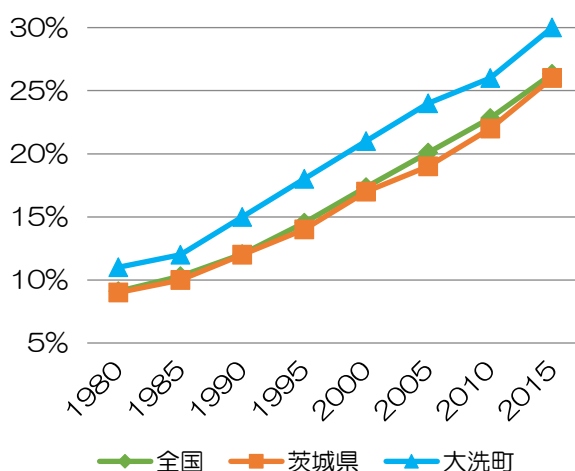
高齢者人口は、生産年齢人口が順次高齢期に入り、一貫した増加傾向が続いており、2000年にはいわゆる「超高齢社会」（65歳以上の人口割合が21%超）となっています。

少子高齢化の状況を、茨城県及び国と比較すると、高齢者人口の割合では、茨城県は国とほぼ同率となっていますが、本町は国・県を上回るペースで高齢化が進んでいます。年少人口の割合は国・県の平均を下回っており、近年では開きが狭くなってきていますが、国・県の平均に対して、より少子高齢化が進展しています。

【年少人口割合推移】



【高齢者人口割合推移】

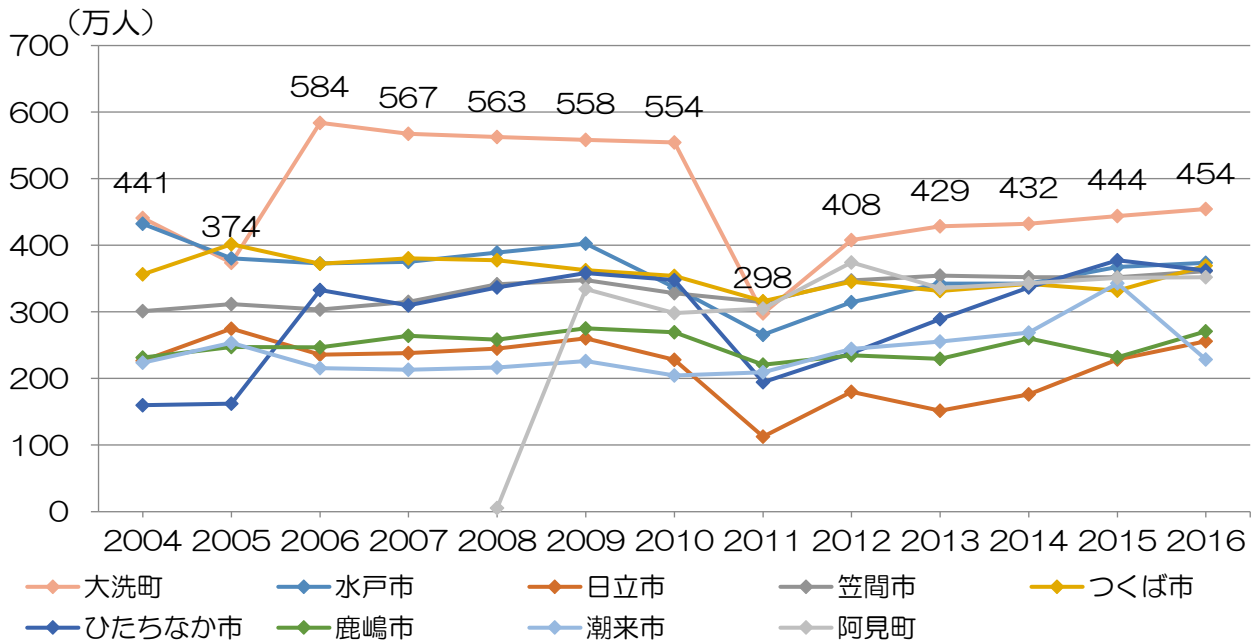


出典：総務省「国勢調査」

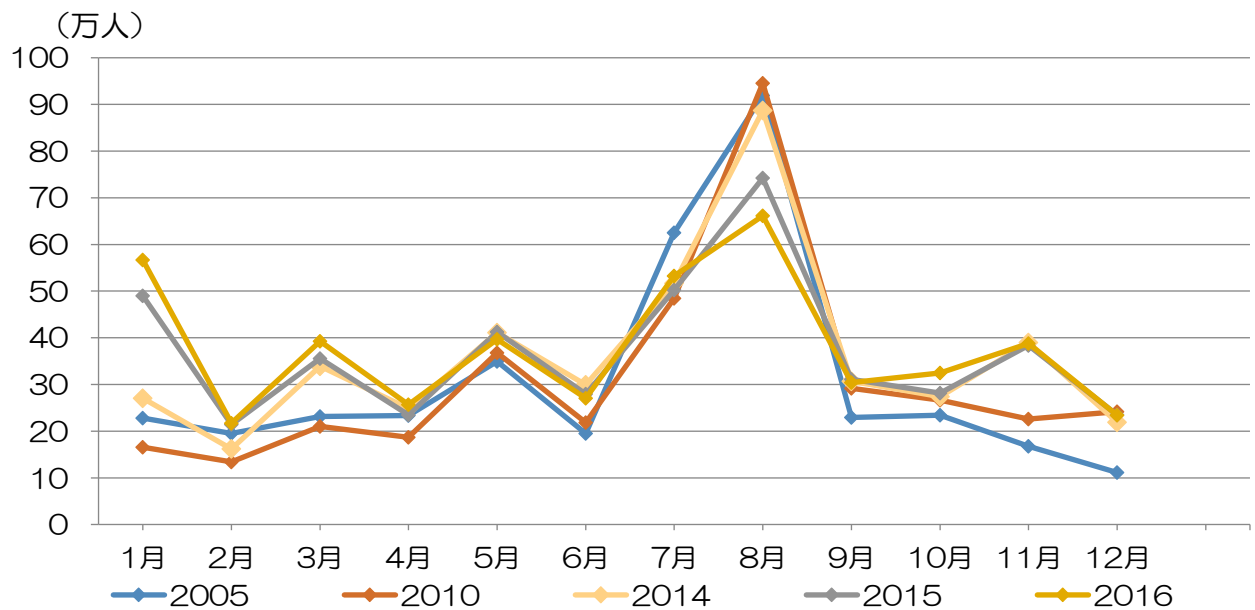
4) 観光

大洗町は、夏季の海水浴を中心に県内で最も多くの観光客が訪れ、大洗リゾートアウトレットが開業した2006年以降は、観光客数は500万人に達していましたが、東日本大震災が発生した2011年に298万人に激減しました。2012年以降は震災前の観光客数を下回るものの、年々増加傾向にあります。また、月別の観光客数では7～8月と1月が多い傾向にあり、シーズンにより観光客数の差が大きくなっています。

【茨城県市町村別入込客数（延べ人数）】



【大洗町月別観光客数】



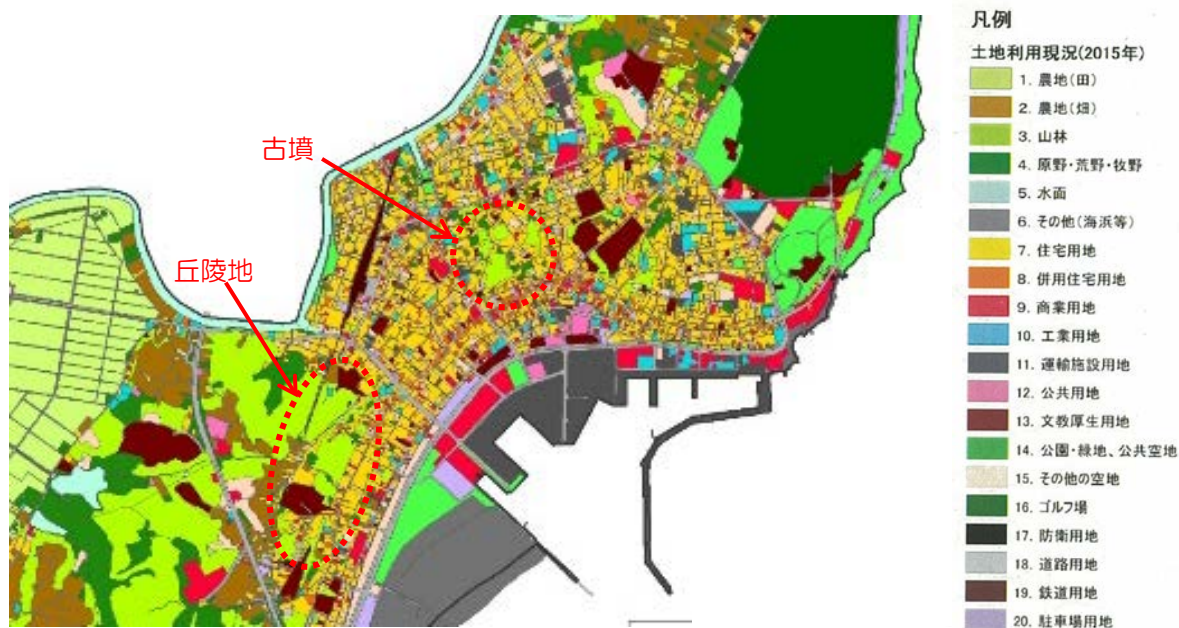
出典：茨城県営業戦略部観光物産課「茨城の観光レクリエーション現況」

土地利用

住居系地域には、丘陵地や古墳があるため低未利用地が存在しており、市街化区域内で土地利用の地形的条件による制約があります。

近年増加傾向にある空家は市街化区域に多く分布し、特に東光台地区南側の沿岸部に集積しています。人口減による空家の増加が予想される中で、既成市街地における安全性、公衆衛生、景観等の悪化が懸念され、生活環境の保全や空家等の利活用への対応が求められます。

【土地利用の状況】



出典：大洗町「都市計画基礎調査」

【空家の分布状況】



出典：大洗町「大洗町空家対策計画」

6) 都市施設

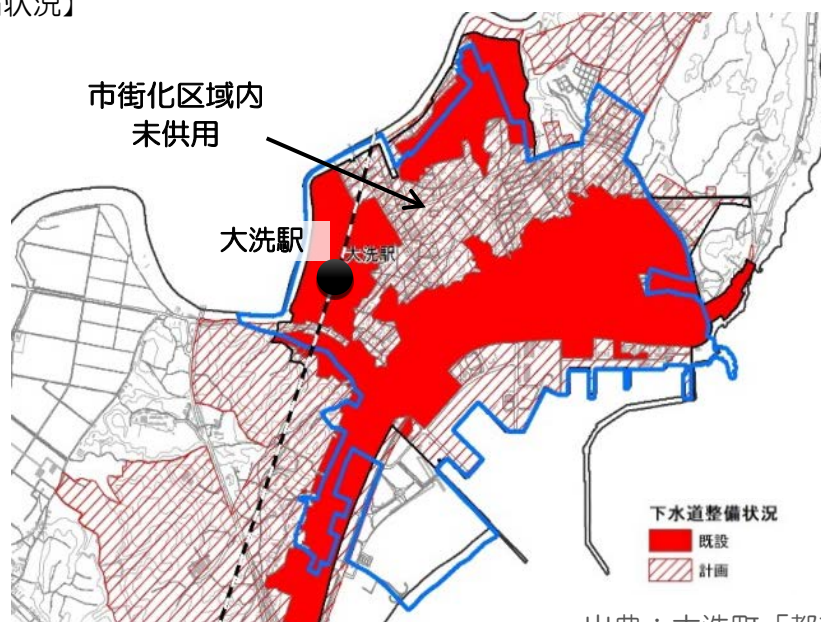
都市計画決定された都市計画道路は、復興事業として進められた駅前海岸線が整備されるなど、約4割が整備されました。また、下水道は全体計画のうち約3割が供用済みであり、市街化区域内にも一部未供用の区域があります。なお、大洗駅から沿岸部の観光エリアを繋ぐ都市計画道路駅前海岸線は、シンボルロードとしての活用が求められています。

今後、市街地が拡大してきたことによるインフラの整備費用が発生する中で、都市施設の老朽化による維持管理費用の増大が予想され、インフラの整備・維持による負担額の増加が見込まれます。

【都市計画道路の整備状況】



【下水道の整備状況】



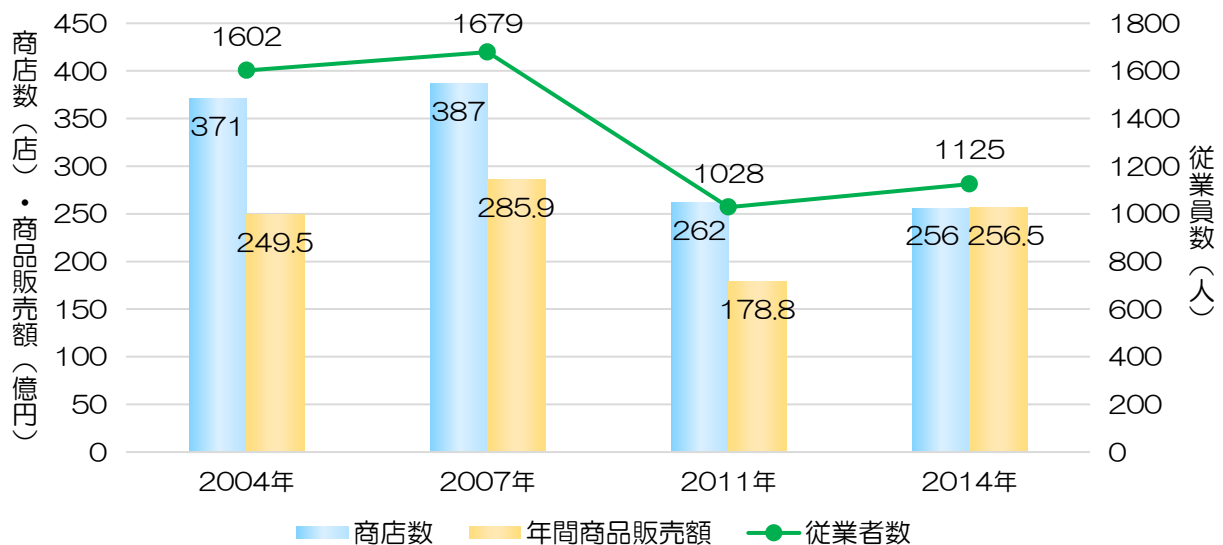
出典：大洗町「都市計画基礎調査」

7) 経済・財政・地価等

商業の年間商品販売額や従業者数は、東日本大震災の影響により2011年に急落したものの、近年は回復傾向にあり、商業指標も回復の兆しを見せています。

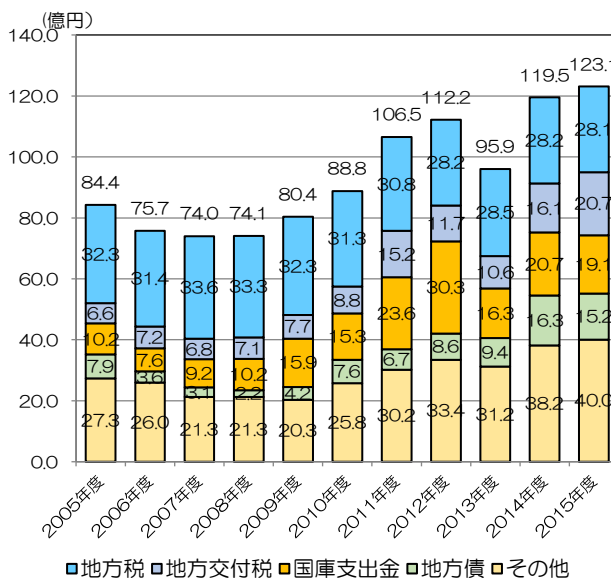
本町の財政における歳入は、生産年齢人口の減少により税収の減少が見込まれ、歳出は高齢化の進行に伴う扶助費や老朽化した公共施設の更新等の費用の増加が見込まれます。また、地価公示の動向をみると、いずれの用途も下落傾向にあります。今後、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進し、将来の更新費用の削減を図る中で、安全・安心なまちづくりを進める必要があります。

【商業の推移】

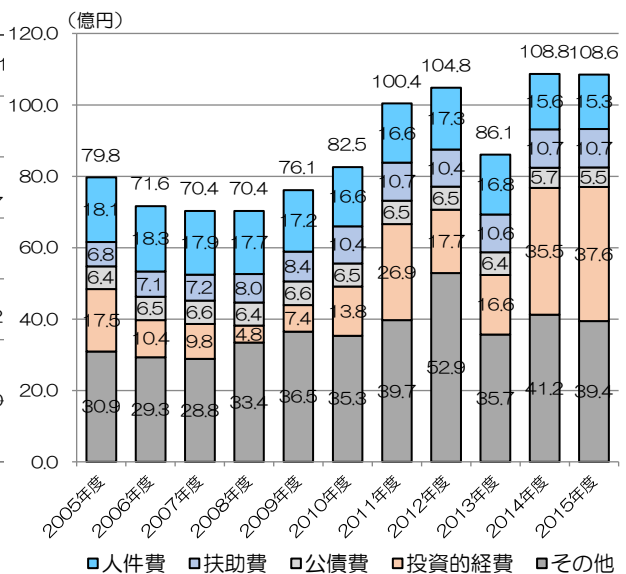


出典：商業統計、経済センサス

【歳入の推移】

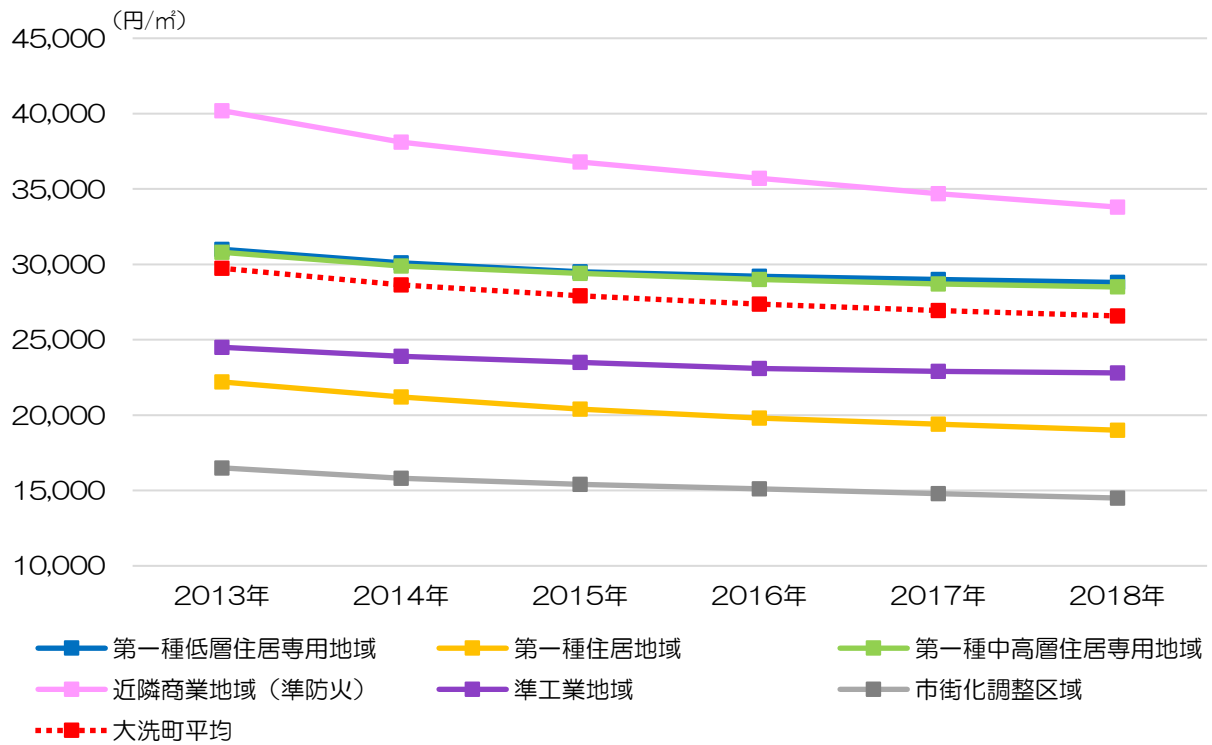


【歳出の推移】



出典：国勢調査

【地価公示の推移】

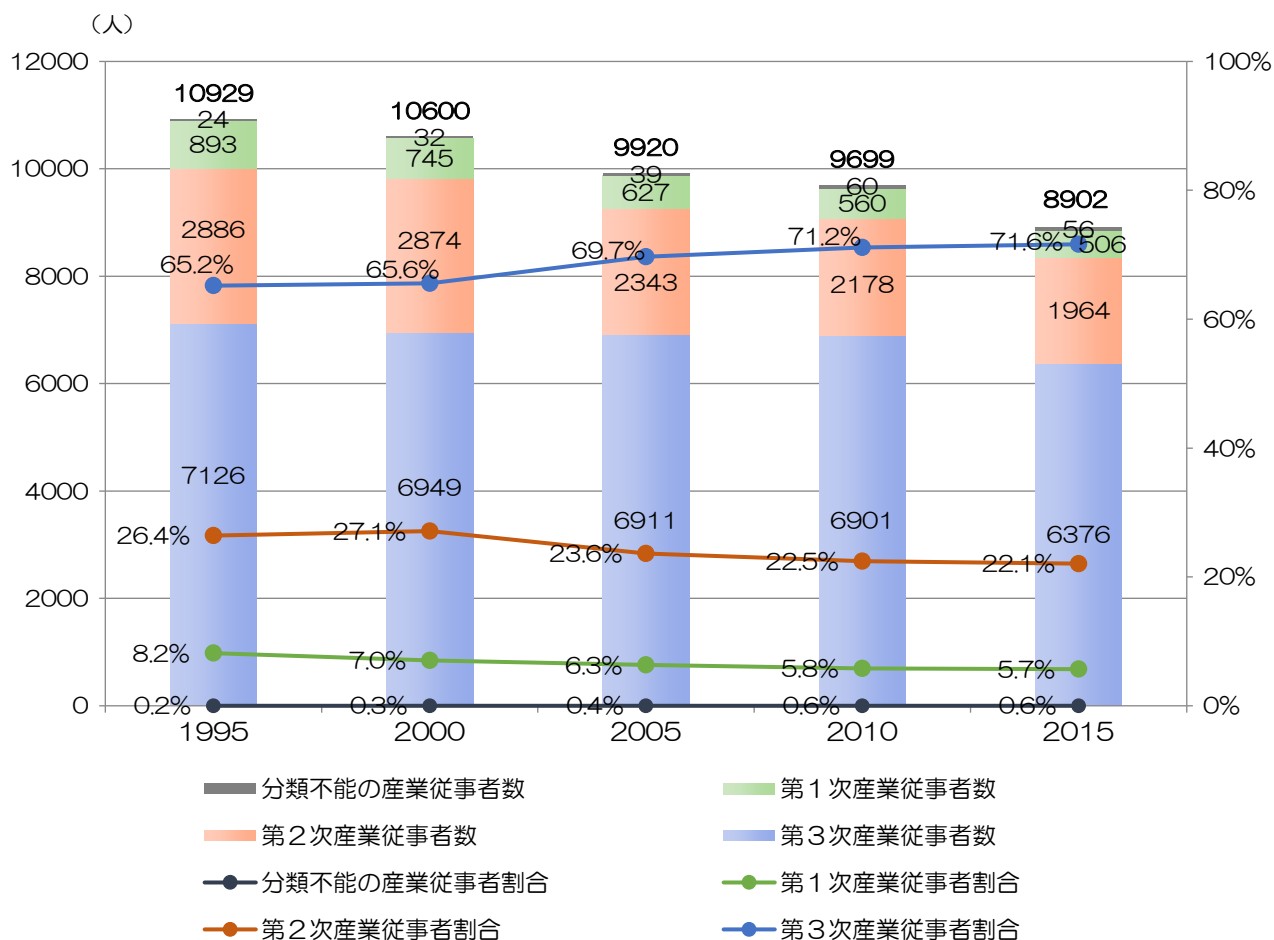


出典：国土数値情報

8) 産業

2015年の大洗町に従業する産業別15歳以上就業者数（総数8,902人）によると、第3次産業6,376人（72%）、第2次産業1,964人（22%）、第1次産業506人（6%）の順となっており、第3次産業従事者が多くの割合を占めています。第1・2次産業従事者の割合は減少傾向にありますが、第3次産業従事者は増加傾向にあります。

【産業別15歳以上就業者数】



出典：総務省「国勢調査」

(2) 町民意向の把握

まちづくりや都市計画に関する町民のニーズを大洗町都市計画マスタープランに反映するにあたり、本町が目指すべき将来都市像や、その実現に向けて重点的に取り組むべき事項等に関する町民の意向を把握するため、アンケート方式による意向調査を実施しました。

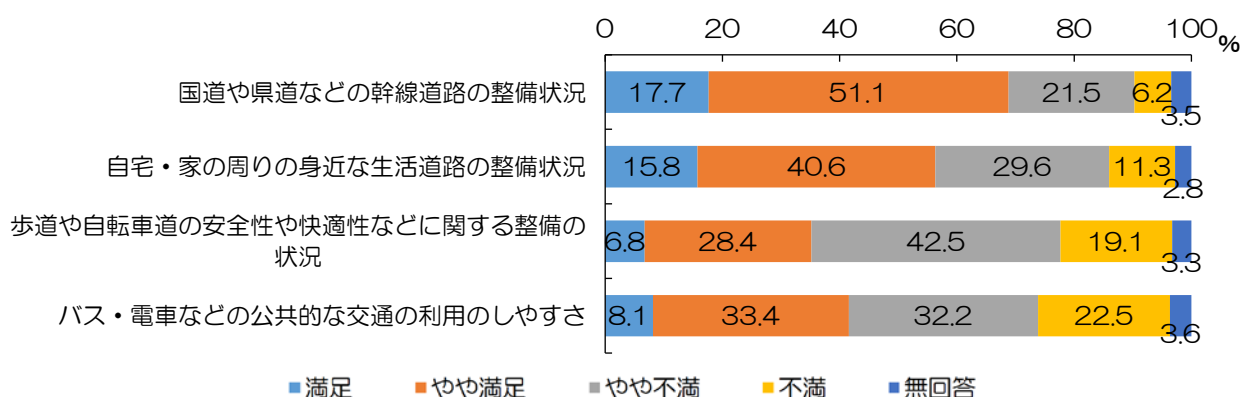
1) 調査実施概要

- 調査対象者：18歳以上の町民 2000 人（年代層ごとに無作為抽出）
- 調査期間：平成 29 年 10 月 18 日～平成 29 年 10 月 25 日
- 調査方法：アンケート調査票の郵送配布・回収
- 回収数：685 通（回収率：34.25%）

2) 大洗町の都市環境に関する評価

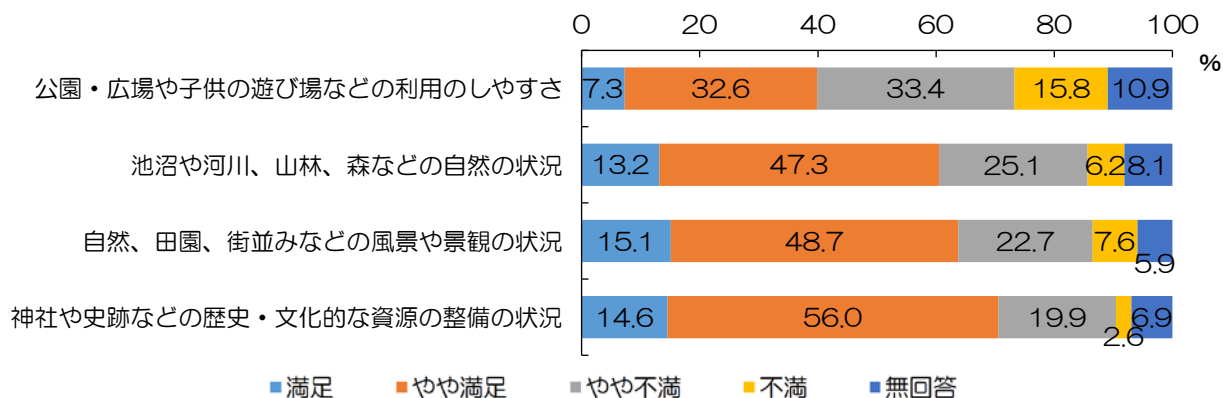
①道路・交通

幹線道路と生活道路の整備は、半数以上が「満足」・「やや満足」であり、満足度が高い結果となりました。一方、歩道の整備や自転車道・公共交通の利用は半数以上が「やや不満」・「不満」であり、満足度は低い結果となりました。



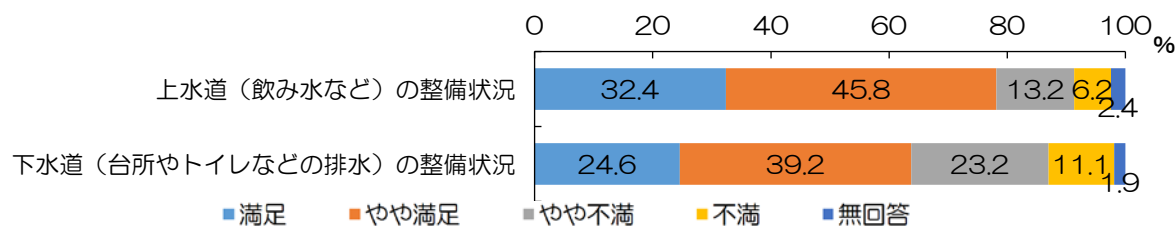
②公園・自然・歴史

自然、景観、歴史・文化的な資源の整備は、半数以上が「満足」・「やや満足」であり、満足度が高い結果となりました。一方、公園・広場や子供の遊び場などの利用は「満足」・「やや満足」が「やや不満」・「不満」をやや下回り、満足度は 40%以下の低い結果となりました。



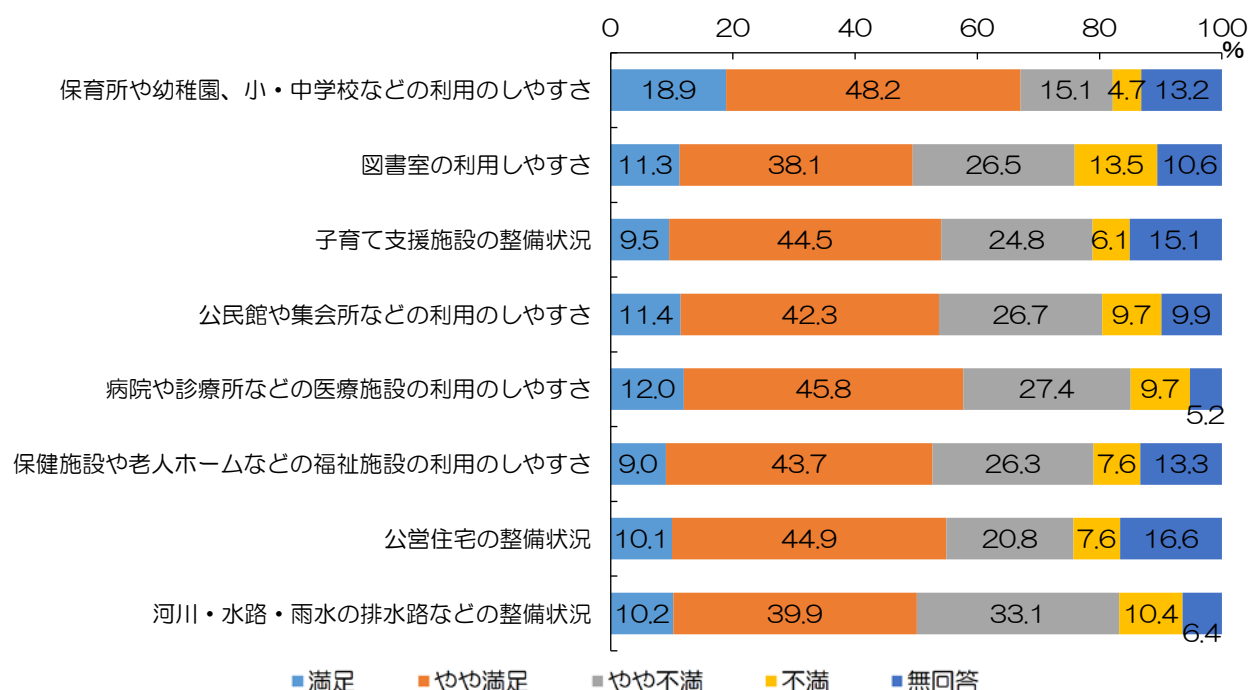
③上下水道

上下水道の整備は、半数以上が「満足」・「やや満足」であり、満足度が高い結果となりました。



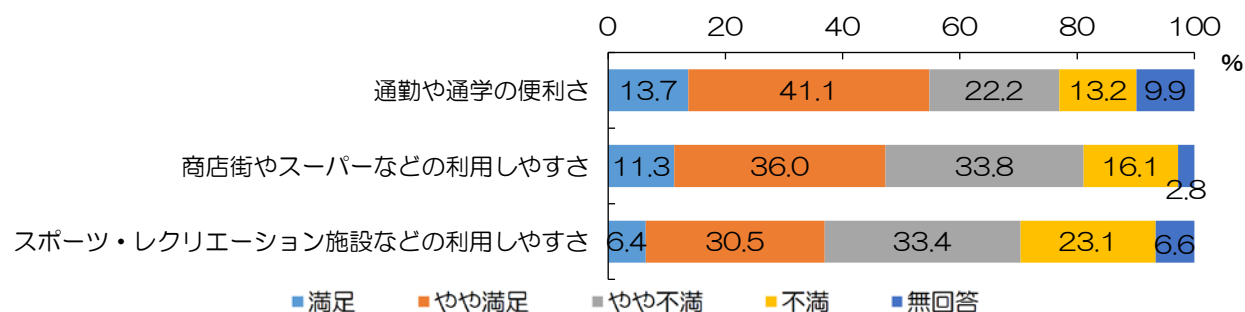
④公共公益施設

保育所や幼稚園、小・中学校、子育て支援施設、公民館や集会所、医療施設、福祉施設、公営住宅、河川・水路・雨水の排水路の利用は、半数以上が「満足」・「やや満足」であり、満足度が高い結果となりました。また、図書館の利用は「満足」・「やや満足」が「やや不満」・「不満」を上回り、満足度は比較的高い結果となりました。



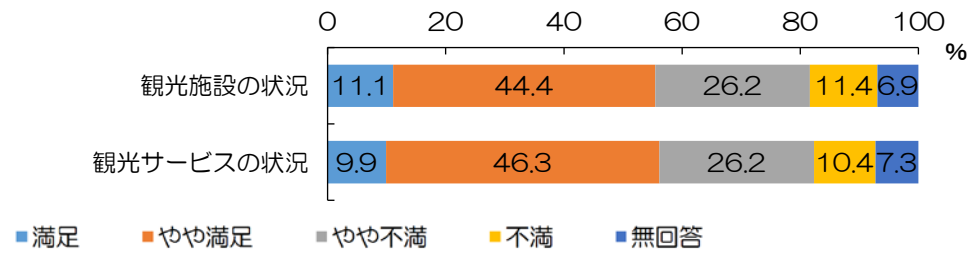
⑤生活行動

通勤や通学の便利さは、半数以上が「満足」・「やや満足」であり、満足度が高い結果となりました。一方、スポーツ・レクリエーション施設などの利用は半数以上が「やや不満」・「不満」であり、満足度は低い結果となりました。また、商店街やスーパーなどの利用は、「満足」・「やや満足」が「やや不満」・「不満」をやや下回り、満足度は比較的低い結果となりました。



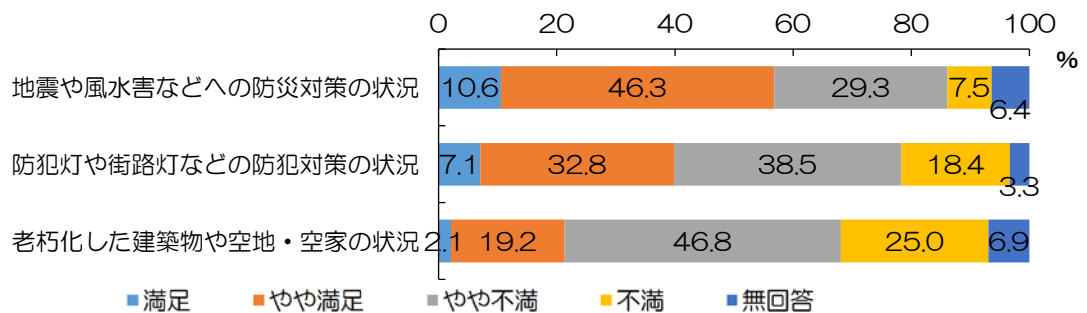
⑥観光

観光施設、観光サービスは半数以上が「満足」・「やや満足」であり、満足度が高い結果となりました。



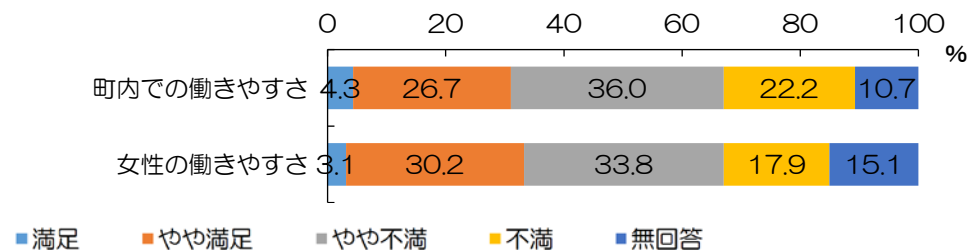
⑦防災・防犯

地震や風水害などへの防災対策は半数以上が「満足」・「やや満足」であり、満足度が高い結果となりました。一方、防犯灯や街路灯などの防犯対策、老朽化した建築物や空き地・空家は半数以上が「やや不満」・「不満」であり、満足度は低い結果となりました。



⑧働きやすさ

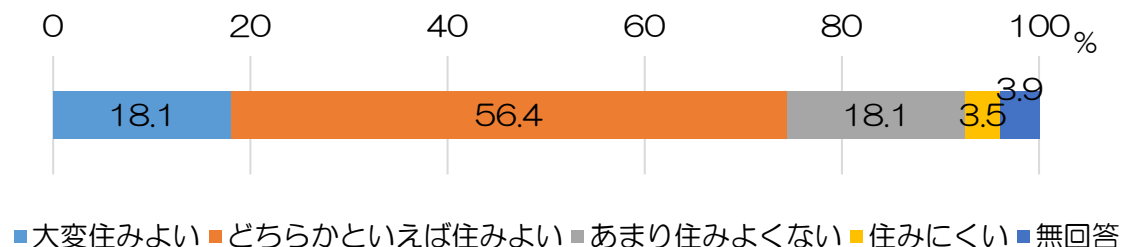
町内での働きやすさ、女性の働きやすさは半数以上が「やや不満」・「不満」であり、満足度は低い結果となりました。



3) 大洗町の住みよさに関する評価

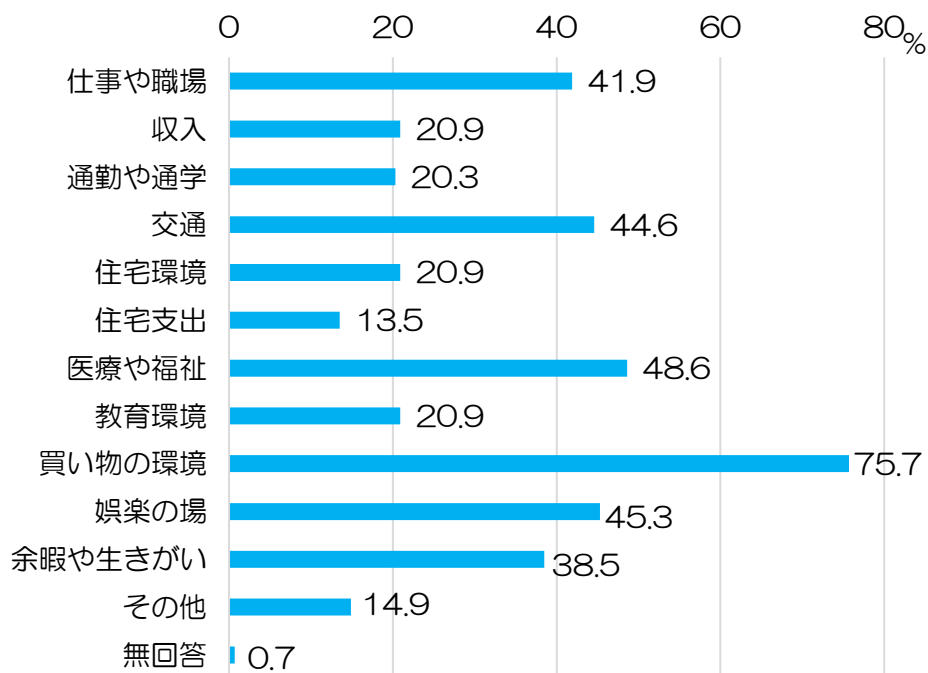
①大洗町の住みよさ

住みよいという回答は約 75%、住みにくいという回答が約 22%であり、多くの町民が住みよいと感じていることが分かりました。



②住みにくい理由

住みにくい理由として最も回答が多かったのは「買い物の環境」でした。次いで回答が多かったのは「医療福祉」「娯楽の場」「交通」「仕事」「余暇・生きがい」でした。



4) 大洗町のまちづくりの方針に関する評価

①将来どのような都市づくりを行うことを望むか

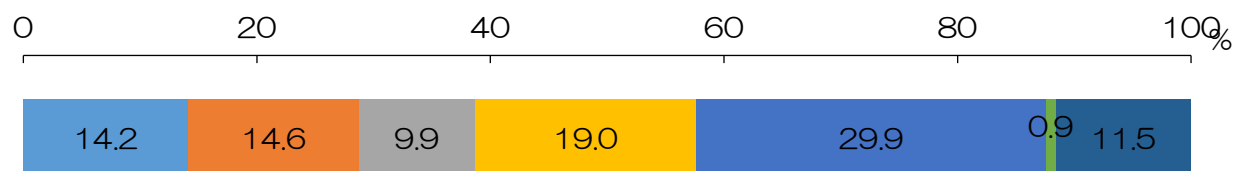
将来の都市づくりに関して、約半数が生活に必要な施設を中心部に集めるという回答が最も多く、生活に必要な施設は現状を維持するという回答も比較的多い結果となりました。また、新たに宅地・インフラ整備を行う回答は最も少ない結果となりました。



- 人口減少や税収の減少等の変化に柔軟に対応していくため、徒歩あるいは公共交通等で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集める
- 人口減少に伴い一人あたりの税負担増が見込まれるが、現状の道路や下水道をはじめ公共施設や公共交通などを現在のまま維持していくとともに、機能が不足している部分は改修・改善を行う
- 大幅な税負担が見込まれるが、郊外型の住宅開発やそれに伴う新たな道路、下水道をはじめ公共施設・公共交通の整備を積極的に行う
- その他
- 無回答

②宅地化の在り方の意向

宅地に関して、現状のまま維持管理を行う回答が最も多い結果となり、次いで主要幹線道路沿いに宅地化を進める回答が次いで多い結果となりました。また、古くからの居住地・集落の近くで宅地化を進める回答が最も少ない結果となりました。



- 都市基盤整備が既に充実している市街地を活用して宅地化を進める
- 市街地の中で道路などの都市基盤整備が進んでいない地域で、新たに道路などを整備して宅地化を進める
- 古くから人が居住している集落地内やその近くで宅地化を進める
- 主要な幹線道路沿いなど、交通条件の良い場所で宅地化を進める
- 宅地化のための新たな開発や整備はなるべく行わず、既存の建物や道路などを活用し、その維持管理を中心に進める
- その他
- 無回答

(3) 都市づくりの課題

大洗町の現況や地域特性及び上位計画等、町民意向調査の結果を踏まえ、都市づくりの課題をまとめます。

◆ 広域観光型まちづくりの展開

大洗町は恵まれた自然資源や歴史資源、観光資源を活かし地域産業を発展させてきました。現在は、それらの資源を活かした観光スポットが形成されていますが、施設単体を目的とした利用者が多いため周遊性に課題があります。そのような中、東日本大震災の影響により観光客数が大幅に減少し、震災後より徐々に増加していますが震災前の観光客数に比べると未だ少ない状況です。

大洗町は水と緑につつまれた美しいまちであり、町全体が住民・来訪者のレジャー、レクリエーション、癒しの場となることから、町全体を一日楽しめる首都圏近郊の観光・交流都市として発展することが求められています。

◆ 安全・快適に生活できる住環境の形成、都市の実現

大洗町は海岸沿いに平坦地、背面が丘陵地という地形形状から、住宅が密集し、一部の区域では、高潮等の自然災害や火災等の都市災害の影響を受けやすい環境がみられます。そのような中、少子高齢化が進行し、高齢者や子育て世代など全ての人が暮らしやすい住環境を形成することが望まれています。

大洗町は自然に恵まれた地域であり、居住の魅力を高めるために、誰もが安全で快適に生活できる居住環境の創出を図ることが求められています。

◆ 時代の変化に対応した都市の形成

大洗町の人口は減少傾向にあり、地域活力の低下が懸念されています。人口減少に伴う財政状況の悪化が懸念される中で、公共サービスの維持に向けた対応を行う必要があります。

人口減少・少子高齢化などの変化に柔軟に対応する環境づくりを進めることにより、地域の活力を維持することが求められています。